

目標（11）

一人ひとりの元気と  
健康づくりを応援します



▲健康自生地での活動のようす

**修正箇所なし**

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活していくためには、何よりも健康であることが大切です。一人ひとりが健康の大切さを自覚し、日々、健康づくりを意識した生活を送れるよう、個人の健康を支援するための環境づくりを進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 一人ひとりが自身の健康状況を把握し、健康づくり活動に積極的に参加しています。</li> <li>◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。</li> <li>◇ 誰もが住み慣れた地域や家庭で健康に暮らしています。</li> <li>◇ 健康づくりに取り組む人と応援する人が増加しています。</li> </ul>

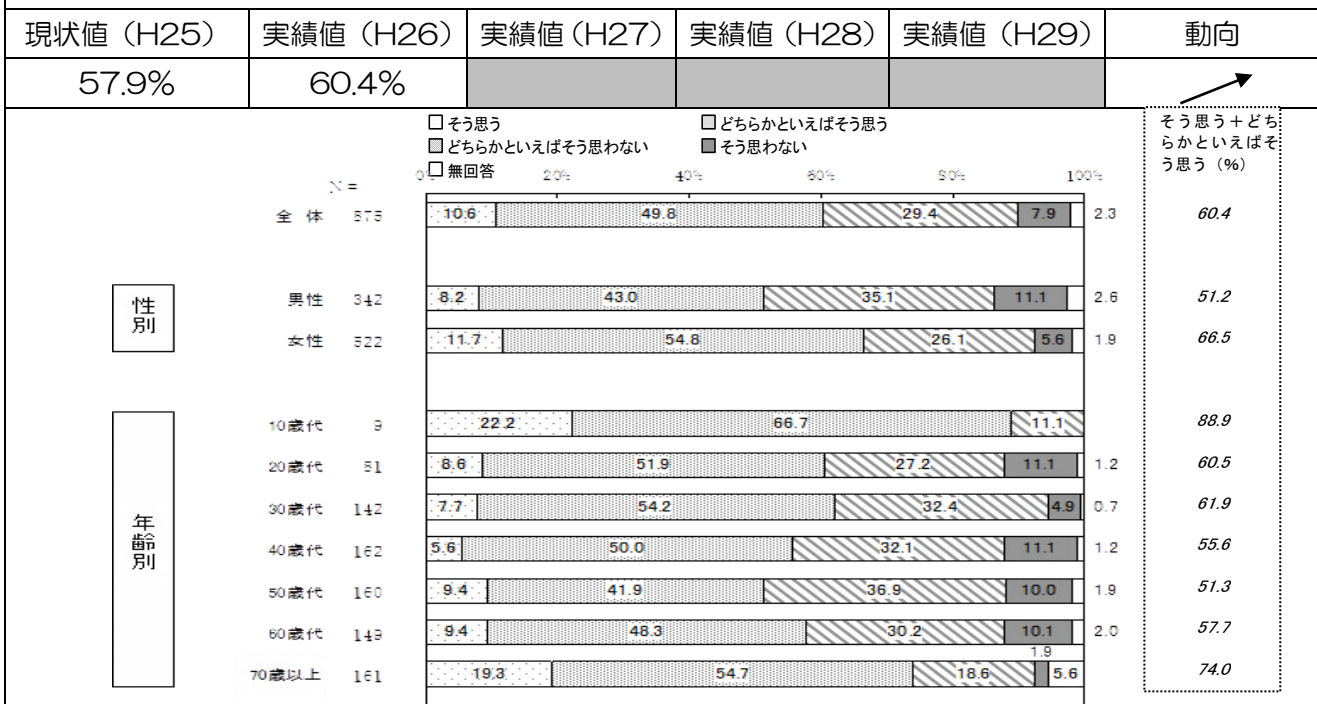
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
(1) 高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	①自宅に閉じこもりがちな高齢者が、自らの意思で出かけたくなるような居場所である「健康自生地」を、街中に新たに26か所創出した（H26年度末 63か所）。また、1日限定の健康自生地として、商店振興会との連携による「健康自生地バスツアー」などを新たに実施した。	H26.4～ H27.3
	②健康自生地に関する情報発信（「でいでーる」発刊やメールマガジンの配信、専用ホームページ「たかはま元気 de ねっと」の運用）を行った。	H26.4～ H27.3
	③各健康自生地のより効果的な運営方法や全般的な課題解決策について検討する生涯現役のまちづくり実行委員会を開催した。	H26.4～ H27.3
(2) 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。	①初期アセスメントとして、基本チェックリストによる認知機能の評価分析を行った。	H26.8
	②国立長寿医療研究センターと連携して、機能健診「脳とからだの健康チェック2014」を実施した。	H26.11
	③「認知症予防スタッフマニュアル」を完成させた。	H27.3
(3) 運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。	①いきいき広場マシンスタジオを運営した。	H26.4～ H27.3
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。（登録者数 H26年度末 1,004人）	H26.4～ H27.3
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。	H27.2
(4) 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H26.4
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。	H26.4
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。	H26.4

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

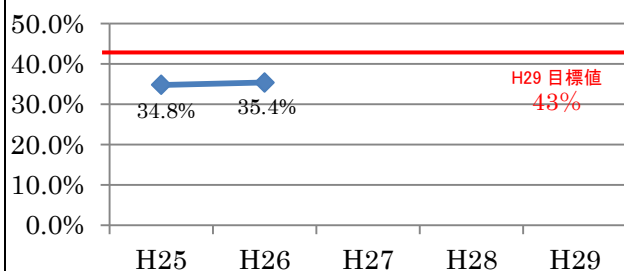
#### 1. 市民意識調査結果

【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う

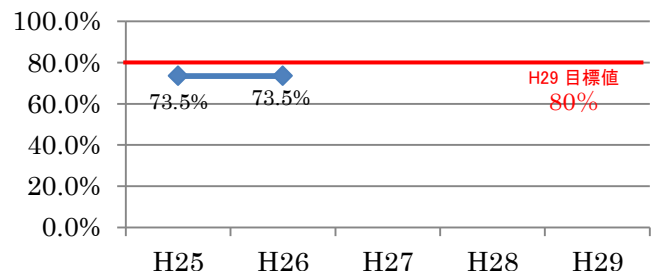


#### 2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合



2) かかりつけ医を持っている人の割合



#### 3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- ・指標1)は、策定時と比べて0.6%の微増となっている。市民意識調査報告書で内訳をみると、20代や30代での運動習慣の割合が全体に比べ低くなっている。若いうちから運動習慣を身につけ日常的に運動やスポーツを行うことは、疾病の発生を未然に防ぐため、そして高齢期を元気に過ごすために必要である。
- ・指標2)は、策定時と同水準で推移している。市民意識調査報告書で内訳をみると、医療機関への受診機会が比較的少ない20代、30代でかかりつけ医を持つ割合が低くなっている。初期の診療は地域の医院・診療所で行い、高度専門的な医療は病院で行うという医療機関の機能分担が地域医療における課題である。救急医療・高度医療の確保からも「かかりつけ医」の利用促進が求められており、地域医療ネットワークの仕組みを広く市民の方にPRする必要がある。
- ・市民意識調査結果は、策定時と比べて2.5%の増加となっている。「健康自生地」の増加など生涯現役のまちづくり事業の取り組みの効果が表れている。

#### Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案）	見直し・改善（案）
<u>（１）健康自生地の新たな創出と利用の拡大</u> ・健康自生地の地域差、性別による利用格差を減少させる取組みが必要である。	・まちづくり協議会と連携した新たな健康自生地を開拓する。	拡充・強化
	・男性限定の講座やメニューの開発、年齢差や性別差を超え、全ての方が楽しめるメニューを開発する。	拡充・強化
	・出かけるきっかけづくりのための「 <u>健康自生地バスツアー</u> 」や「 <u>健康自生地ウォーキング</u> 」を実施する。	拡充・強化
	・利用の利便性向上のための交通手段の確保を行う。	拡充・強化
<u>（２）機能健診「脳とからだの健康チェック2015」の実施と予防介入事業の研究開発</u> ・認知症の発生を未然に防ぐ予防の取組みを行う必要がある。	・60歳以上の市民を対象にした「 <u>脳とからだの健康チェック2015</u> 」を実施する。	継続
	・健康自生地における個人単位の活動データと認知症予防の相関関係を調査研究するためのデータ管理システムを構築する。	拡充・強化
<u>（３）病・診連携の機能強化と地域医療の充実</u> ・休日や夜間における救急医療体制の確保と高度医療や入院治療など市民の <u>医療ニーズに対応できるための地域医療を充実させる必要がある。</u>	・地域医療ネットワークの定着に向けた市民への周知を行う。	拡充・強化
	・1次救急、2次救急、3次救急の医療体制を確保する。	継続
	・ <u>かかりつけ医の利用促進と在宅医療の充実を図る。</u>	継続

#### Ⅴ. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

##### Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

--

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

### Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 健康自生地の取組みは高齢者が対象であり、住まいの学区以外の健康自生地に足を運ぶことは難しい。学区ごとの自生地マップがあると良いのではないかな。
- 新たな健康自生地の開拓においては、いきいきクラブとの連携も不可欠である。
- 健康自生地を考慮した、いきいき号のコース検討も必要ではないかな。
- 認知症サポーターの人数を増やすだけでなく、認知症予防の取組みを積極的に進めていただきたい。

### その他、目標の達成に向けて

- 福祉部門においては新規事業が増えており、職員の負担は大きいと思うが、市民サービスの向上のため尽力していただきたい。